

2003/10/10

## 温泉の保護と利用に関する懇談会／話題提供要旨

高橋 保（財団法人中央温泉研究所）

### 1. 温泉開発に関する課題

最近の温泉開発は、掘削深度が深部化する傾向にあること、開発される温泉は量が少なく、水位が著しく低下する場合があること、源泉孔内の温度が低く、掘削深度の割に湧出温度が低いものもあることを述べ、これらに関係した源泉の劣化問題についても触れる。

### 2. 温泉の湧出・給湯形態と浴槽の運転形態

温泉が湧出する場所・構造物を源泉というが、源泉の掘削の有無と程度から見た区分（自然湧出と掘削）、温泉湧出の形態から見た区分（自噴と動力揚湯）を述べる。また、温泉の利用形態や供給形態をいくつかに区分し、それぞれで特徴があること（温泉が湧きだしている場所に浴槽を設けているケース、温泉をいくつかの施設で共有しているケースなど）や、かけ流し・循環濾過といった浴槽の運転形態についても述べる。

### 3. 温泉浴槽の衛生管理上の問題

日帰り入浴施設と宿泊施設との相違に伴う浴槽の衛生管理の問題について考える。また、温泉の浴用と飲用の禁忌に関する課題、療養泉の捉え方についての問題、分析の実施場所の問題などについても触れる。

### 4. 温泉資源の保護と温泉管理の重要性

温泉の要件をぎりぎりクリアするような温泉が抱える問題や、未利用源泉や温泉に適合しなくなったものの取り扱いに関する問題について述べる。また、こうした問題や昨今の温泉に関する考え方は、将来的には温泉利用量を増加させる圧力となるので、温泉資源の枯渇化を促進する恐れがあること、これを防止するためには源泉の現況把握が必要であることを述べる。